



Café good bye ! Milk Hall

NO.1

私が自分達への戒めとして、アルバイトの人達に言う言葉があります。「ミルクホールにはね、魔法がかかっているのよ。だからもし今、魔法がとけたら、あんな風楽しくしているお客さまたちが部屋の中を見渡して、どうして私達はこんなあばら家に座っているんだろう？って、不思議に思っただけで皆出て行ってしまおう。だから皆で、魔法がとけないように努力しなくてはなりません」

本当にそう思うのです。この店には魔法がかかっている。この魔法に魅せられた沢山の人達がミルクホールを思い出して、立ち寄り、お茶をしたり、食事をしたり、買い物を楽しんだりして支えてくれています。いつ、誰が、かけた魔法なのか、それは分かりません。でももし魔法がとけたら、ミルクホールは今にも朽ち落ちていく古ぼけたあばら家なのです。この刹那な現実が一層魔法を強くしているのかもしれない。でも刹那は刹那で、誰も時間を止めることはできません。朽ちていく柱、欠け落ちていく壁、何より長年の湿気と重みで揺らいでいく家、魔法では解決しない問題です。ミルクホールは、魔法と年月との狭間で細く長く生き伸びてきたのです。この問題とミルクホールの現実を、何十年も考え、目を瞑り、妥協しつつ向き合ってきました。そして今、私達は一つの結論に到っています。

一度ミルクホールにかけられた魔法をといて、現実の時間としっかり向き合う時が来た。

それには、ミルクホールが魔法にかかったはじまりを、私達自身がミルクホール出発点にタイムスリップして、もう一度見つめなおす必要があると、考えます。始まりは終わりの始まりで、終わりは始まりでもあるのですから。

ミルクホールが、生まれた時代。1972年、今から37年前に遡ります。今のミルクホールスタッフの大半が生まれる前のことです。1970年代、ノスタルジーと言われるでしょうが、なんだか今振り返ると甘く切ない時代でした。70年安保に吹き荒れた時代の荒波は遠くなり、エネルギーと、退廃が混沌として混じりあい、不思議な詩情に満ちた時代だったのです。

沢山の音楽、歌、詩、演劇が生まれました。寺山修二が、「書を捨てよ、街へ出よう」と呼びかけ、街での演劇実験を試みました。街には何かが起きる…という興奮にも似た期待がある一方で、ディスカバー・ジャパンという流行語と共に、若者達は田舎へと、足を向けたのです。豊かな敗北を味わった時代だったのではないかと思います。



ミルクホール
Kamakura

to be continued

COLUMN

鎌倉の猫事情 第九十話

早くも、秋風が吹いてきました。今年は随分秋の訪れが早いようです。今までになく、この突然の秋の足音に怯えているのは、猫達です。特にグーニーは無類の寒がりなのです。情けない顔をして縮こまっている愚猫のために、マスター早速電気毛布を出してきました。いくらなんでも早いんじゃないかと思いますが、結局猫の寝床を造ってやっているうちに、自分がすっかり眠りこけてしまい、昼日中、寝ぼけ眼をこすりながら、「いやあ、いくらなんでも、まだ熱いよ」との、仰せでしたので、まだ早い電気毛布とはりあえず電源を切って、ソファに積まれたふかふかの冬用毛布に丸まって、グーニーは安心したように眠っています。先日のニュースで、なぜか車のタイヤに頭をつっこんでしまって抜けなくなった、わけのわからない犬のニュースがありました。犬は、頭は抜けな



いし、人は集まってくるし、余計興奮して頭が抜けなくなってしまったようでした。タイヤの持ち主も、近くの人も見知らぬ犬だと証言していました。消防や保健所の人たちが保護し、大きな麻酔薬を打っておとなしくさせ、ようやくタイヤは抜けました。自由になった犬は怯えきって逃げまどいましたが、一旦保健所に収容され、1週間経っても引き取り手が現れなければ、「処分される」という事でしたが、先日、「タイヤ犬の飼い主あらかわ」という続報があり、「なついてくれるかどうか…」と、案じつつも飼い主になると名乗りをあげて下さったご婦人があったそうで、安心しました。これからは、タイヤなどに興味を向けず、新しい飼い主と心機一転、頑張って仲良く暮らして行ってほしいものです。グーニーだって、小さい頃、ベッドの台の狭い所に頭をつっこんで、頭を自分で少し横向ければ抜けるのに、わあわあ泣いているばかりでどうしても抜けず、このままじゃ死ぬっていう事態になって、あの重いベッドを二人がかりで持ち上げて救出したことがあるんです。皆、そうやってすれすれのところで生きてきたんですから、あのタイヤ犬だってやって出来ないことはないんです。タイヤ犬と、飼い主の方の、未永いお幸せをお祈りいたします。

to be continued

Overstolz





LIVE 満月の夜

ミルクホール特別ライブ

琵琶と尺八の夕べ

10/2 Fri.

19:00~

日本古来の侘しい音色と
JAZZの魂が
ミルクホールで出会い
ました。

満月の夜の幻想に
目を閉じ、
耳を傾けて
お聴きください・・・

琵琶・馬場鶴生

語り・パーカッション他

尺八・榎本秀水

フルート・テナーサクソ・唄

ゲスト 語り

東の宮美智子

10/17 sat.

by HALF MOON

19:30~

琢磨 仁
琢磨 啓子

HALF MOONの音楽は
愛と平和を歌います。

ライブチャージは頂いておりません。
普段と同様にミルクホールのライブを、お酒と
おいしいお料理でお楽しみ下さい。



Bar Time

DINNER SET

好評のミルクホールのディナーセット
魚料理と肉料理を、お好みで・・・

オードブル サラダ
メイン ディッシュ
パンorライス ¥2200~
デザート
コーヒー or 紅茶

HISTORY

KAMAKURA

場所の記憶 40

ミルクホールのルーツ 26

「俺は百姓だからな」と、葦山の叔父さんは言っていました。「木内は、700年続いた先祖代々の百姓だ」と、鎌倉時代からあるという苔むした五輪塔が並ぶ先祖代々の墓を見せてくれました。叔父さんは曲がった腰で毎日田んぼか、山へ出掛けて行きました。春になると、私達を竹の子山へ連れていきました。サトイモの実った畑にも連れて行ってくれました。サトイモの畑に入った時に、海の中に入ったような不思議な感覚に襲われたのをよく覚えています。びっくりして叔父さんの顔を見ると、笑っていました。「これを、教えたかった」というように。サトイモの畑も、竹がどんどん伸び始めた山の中もやっぱり海に似ていると私は思うのです。それでも両者は少し違うのですが・・・叔父さんは自分の後に畑や山を守るものがないことを気にしていましたが、あきらめてもいました。私達には、できるだけ畑や山や作物や炭のことなんかを、体験させてやろうと思っていたようでした。いつも黙って先に歩き、その後を着いていくと、何かがありました。一度とうもろこしの畑の中で叔父さんの被っている帽子に小さな青蛙が止まっているのを見つけ、「蛙が止まってる」と言うと、「蛙は友達だあな」と笑っていました。ある年の冬の日に、叔父さんは一人で随分と電車を乗り継いで、わざわざ鎌倉まで黒い箱を届けてくれたことがありました。中に入っていたのは、冬眠中の大きなガマ蛙でした。ガラスの箱に冬眠中の蛙を入れて黒い布を掛けた物でした。「お前達は、蛙を知らねえぞ」と言ってお茶も飲まずにそのまま田舎へ帰って行きました。黒い布を少しめくると眠っている蛙が見えました。眠っていてもほんの少しは動いたりしていました。ひと冬それを眺めて、春になり田舎へ返しに行きました。それから何年かして、歩けなくなった叔父さんは逗子で暮らし、息子さんたちに見守られて亡くなりました。お葬式の日、葦山から駆けつけた大原の義父さんは「栄さん(叔父さんの名)にはもっと玉葱のことを教えてもらっておくんだ」と、涙を浮かべて話し、葦山に帰って行きました。叔父さんも、きっと懐かしい田舎へ帰っていったのでしょう。



Information

ミルクホールタイムス 総集編

「鎌倉ミルクホールタイムス」

¥1800

ミルクホールタイムスを1976年の創刊号より、100号まで
人気連載中の「鎌倉の猫事情」を第一話より掲載いたしています。

ミルクホールタイムス定期購読募集

年間購読料 ¥1500

〒248-0006

鎌倉市小町 2-3-8

PHONE 0467-22-1179

FAX 05034882872

mail info@milkhall.co.jp



次号へ

ミルクホール

骨董・ガラクタ市

蚤の市

10月の蚤の市のテーマは、漆です

10/24 Sat. 25 Sun.

ミルクホールのアンティークは
 明治・大正時代の日本のものを中心に
 古き良き時代の暮らしの中で親しまれた品々を揃えています。
 今月は、漆のある食卓にまつわる道具をいろいろ集めました。



..... 蚤の市 入荷予定

漆のある食卓・器のいろいろ

- 大正時代 輪島塗 椀・盆・膳
- 江戸期お歯黒鉢
- 根来・朱漆の桶・道具類
- 漆塗りの家具 衣裳筆筒・格子戸
- 本膳と伊万里
- 蒔絵のもの 椀・箱・かんざし
- 李朝の漆箱
- 酒器いろいろ



伊万里・古陶磁 和洋家具 古民芸 アンティーク

..... ANTIQUES

♠ 和洋家具

- 庄内筆筒3尺各種
- 明治水屋筆筒一間 二段
- 大正時代ガラス水屋 2段
- カウンターテーブル ミシン脚 2種
- 明治・大正時代小筆筒各種
- 明治時代衝立・昭和初期衝立
- 大正時代ガラスケース各種
- 明治～昭和文机各種
- 裁縫台各種

♣ 古陶磁

- 伊万里染付輪花皿5枚組
- 明治九谷小皿5枚組
- 古伊万里扇形豆皿5枚組
- 織部長皿5枚組
- 明治銅版小皿
- 明時代染付徳利
- 伊万里唐草小皿・なます
- 伊万里蓋お碗各種
- 明治瀬戸石皿・鉢

◆ アンティーク

- 藤田嗣治聖母子像
- アンティーク額入り
- アンティーク額各種
- 竹久夢二額入り
- 明治乳白ガラスシェード
- 昭和初期照明スタンド各種
- 額絵・ポスター各種
- フランス製オイルランプ
- トランク・バッグ各種
- 婦人用懐中時計

♥ 古民芸

- 大正時代鏡台
- 漆お椀・茶托・御膳
- 明治道具箱・樽など
- 李朝石鍋 珍品
- 常滑壺 越前壺

古布・古裂

✂ 半衿・帯揚げ

- 無地の半衿 ￥500より
- 銘仙・絞りなど ￥800より

✂ 着物

- 大島紬・琉球紬・銘仙
- 久留米絁・お召し・縮緬

✂ 古布

- 反物 大島紬・絞り・銘仙など

✂ 帯締め

￥800より

✂ 帯

1mにつき1000円ほどの価格です。
 ご自分で色々なものをお作りになる
 方達のご要望に合わせて、多種多様
 な日本の布地を取り揃えています。

- 名古屋帯
- 袋帯
- 昼夜帯
- 半幅帯

